

学生派遣プログラムに参加して

政治経済学部 2年 三宅 麻祐（鳥取）

私は千葉県の成田市に十年住んでいるのですが、成田がいくら田舎とはいえ腐っても首都圏、千葉県。大学に入ってから「どこ出身？」という話題が出るたびに地方から上京して一人暮らしをしている人がうらやましくて仕方ありませんでした。やはり心のどこかで、大都市から離れた「地方都市」での生活に憧れを抱いていたのだと思います。愛媛出身の母や従姉妹が方言を話しているのを耳にするたび、地方出身の大学の友達が長期休みに飛行機や新幹線で帰省する話を聞くたび、生活の中の様々な場面でその思いは強くなる一方でした。そんな時に今回の派遣プログラムの存在を知り、東京から遠く離れた地で暮らす人たちと触れ合う中で自分とは異なる考え方や価値観に出会いたいという思いと「第二の故郷」が出来たら良いなという淡い期待を胸に参加しました。

濃密なプログラムが終わった今改めて振り返ってみると、準備期間から鳥取県での実習、東京に戻ってから報告書が完成するまでの日々は風のように一瞬で過ぎてしまったように感じます。想像していたほど平坦な道のりではなく、きちんと成し遂げられるのだろうかと何度も不安に押しつぶされそうになりましたが、最終的には新しく人に出会い話をすることがどれだけ自分に見える世界を広げてくれるのかを実感することが出来た実り多き旅となりました。

まず、東京からやってきた右も左もわからない私たちを温かく迎え、「またおいでね」とやさしく見送ってくださった伯耆町の方々に出会えたおかげで、今まであまり身近には感じられなかった「地方創生」という言葉が私の中で一気にリアリティを増しました。「地方」という言葉に一気に血が通い、今ではすっかり鳥取県は私にとっての「第二の故郷」となりました。政治経済学部で学ぶ一人の学生として地方の活性化に向けてどんな形で携わっていけるかを考える上で、また社会に出て仕事をしていく上でも、きっとこの出会いは今後もずっと大きな意味を持ち続けると思います。次に、初めて出会った学部も学年もばらばらのメンバーで集まって何かをすること、行ったことのない町について真剣に考え議論を交わすこと、現地で慣れないフィールドワークや熟議を行うことなど初めてのことに手探りで取り組む中で班長である私が自信を持たずに立ち止まってしまった時に、他の班員それぞれが持つ強みを発揮し道標となってくれたおかげで最後までやり遂げることが出来ました。はっきりとした答えがない課題に対してチーム一丸となってベストアンサーを生み出すことの難しさを知ると同時に、困難を乗り越えた達成感や喜びをチーム皆で分かち合うことが出来た今回の経験は一生の宝となりました。個性の強いメンバーと過ごすことが出来た数か月間は本当に楽しかったです。

最後になりましたが、私個人としても伯耆町とのご縁を今後もずっと大切にしていきたいのはもちろんですが、今後もこのプログラムが明大生へ受け継がれ、明治大学と鳥取県との温かい関係が末永く続いていくことを願っています。